2023/6/22
（決議）資料１

2023 年度　第 19 回日本サッカー殿堂　特別選考候補者プロフィール

1. 大澤　英雄（おおさわ　ひでお）

1936 年 1 月 22 日生（87 歳）
北海道出身

国士舘大学サッカー部創部時から選手としてプレー。卒業後は、同部のコーチ、監督などを務める。60 年以上の長きにわたる指導で、同大学を全国屈指の強豪校にするとともに、数多くのプロ選手を育て上げた。
指導者の養成にも力を注ぎ、同大学から優秀な監督、コーチ、さらにはサッカー協会、クラブスタッフ等、多くの人材を日本サッカー界に送り出した。また、少年(第 4 種)育成にも目を向け、全日本少年サッカー大会（現、JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会）の創設に尽力。JFA の 4 種担当理事、特任理事として少人数制(8 人制)サッカー導入への道筋をつけた。
2003 年には、全国の大学サッカー部に所属する全ての選手に出場機会を提供すべく、「インディペンデンスリーグ(I リーグ)」を創設。大学サッカーのすそ野の拡大はもとより、I リーグで出場機会を得て、日本代表に選出されるなど大きく飛躍した選手もおり、トップレベルの選手強化にも大きく貢献した。
日本サッカー指導者協会の初代理事長も務め、指導者の組織化にも尽力した。
現在は学校法人国士舘の理事長を務める。
2019 年旭日中綬章受賞。

2. 大仁 邦彌（だいに くにや）

1944 年 10 月 12 日生（78 歳）
兵庫県出身

神戸市立本山中学校でサッカーを始める。兵庫県立神戸高校卒業後、1964 年に慶應義塾大学に入学し、同大学ソッカー部でプレー。在学中、全ての公式戦にフル出場。
1970 年に三菱重工株式会社に入社し、同サッカー部に入部。1972 年に日本代表に選出される。日本サッカーリーグ(JSL)では 1978 年の引退までの 8 年間で 119 試合に出場し、1 得点、4 アシスト。日本代表としてはインターナショナル A マッチに 44 試合出場。1978 年には、現役選手としてプレーを続ける傍ら三菱重工サッカー部のコーチに就任。引退後は専任のコーチとなり、1984 年に監督に昇格、1989 年まで指導に携わる。
1992 年に日本サッカー協会(JFA)の施設委員長に就き、2002 年 FIFA ワールドカップのスタジアム整備や開催地の検討を進める。1996 年に JFA 理事に就任。同年、強化委員会(現、技術委員会)の委員長に就き、次期監督人事などに携わる。1999 年以降、2002 年強化推進本部副本部

長としてフィリップ・トルシエ監督率いる日本代表チームを支え、2002FIFA ワールドカップ日本/韓国でのベスト 16 に貢献。
JFA 常務理事、女子委員長、株式会社日本フットボールヴィレッジ代表取締役副社長、日本フットサル連盟会長等を歴任した後、2006 年に JFA 副会長、2007 年には日本フットサルリーグ最高責任者(COO)に就く。2012 年に JFA 会長に就任し、2014FIFA ワールドカップブラジル出場、女子サッカーの充実、東日本大震災復興支援、JFA の組織改革、高円宮記念 JFA 夢フィールドの建設等をけん引した。
2016 年旭日小綬章受章。

3. セルジオ 越後（せるじお えちご）

1945 年 7 月 28 日生（77 歳）
ブラジル・サンパウロ出身

ブラジルのサンパウロで生まれ育ち、同国の名門クラブであるコリンチャンスなどでプレー。1972 年に来日し、藤和不動産サッカー部(現:湘南ベルマーレ)に所属、日本サッカーリーグ(JSL)初の元プロ選手として活躍した。
引退後、JSL1 部の永大産業のコーチを務める。1978 年より「さわやかサッカー教室」の認定指導員として全国各地を回り、25 年間で 1000 回以上実施、50 万人以上の少年少女を指導した。
ブラジル仕込みの卓越したボールテクニックを披露することで少年少女に刺激を与え、受講者から、後に J リーグ選手や日本代表選手になった者は枚挙にいとまがない。全国各地でサッカーの種をまき、その後の日本サッカーの発展に大きく貢献した。また、日本サッカー協会の強化委員（現、技術委員）としても活躍。
現在はサッカー解説者として、サッカーの楽しみ方や魅力を伝えるほか、厳しい視点で問題点を追求するなど辛口のコメンテーターとしても知られている。また、プロアイスホッケークラブの H.C.栃木日光アイスバックスや日本アンプティサッカー協会などの役員を務めるなどサッカー以外のスポーツの振興にも尽力している。
2006 年文部科学省生涯スポーツ功労者表彰、2013 年外務大臣表彰、2017 年旭日双光章を受賞。

4. 高橋 陽一（たかはし よういち）

1960 年 7 月 28 日生（62 歳）
東京都出身

1981 年に「週刊少年ジャンプ」で連載が始まり、世界中で大ヒットしたサッカー漫画「キャプテン翼」の

作者。主人公の大空翼を中心に、個性的なチームメイトやライバルとサッカーを通じて成長していく姿が描かれたこの作品は、連載当初から子どもたちの心をつかみ、多くの少年少女にとってサッカーをプレーするきっかけとなった。「キャプテン翼」の影響でプロサッカー選手になった者も多く、それが後のＪリーグ人気にもつながり、日本サッカーの普及と発展に多大なる貢献を果たしたと言える。
テレビアニメも世界各国で放送され、後に世界的サッカープレーヤーとなる多くの選手にも影響を与えた。現在も続編が連載されており、今なお世界中のサッカーファンを魅了し続けている。2013 年から「キャプテン翼 ライジングサン」が「グランドジャンプ」で連載中。
コミックスの世界累計発行部数は 9000 万部を超え、1983、1994、2001 年にはテレビアニメ化され、劇場版も製作。舞台化もされた。
また、2019 年には自身の出身である東京都葛飾区に誕生したサッカークラブ「南葛 SC」のオーナーとなり、Ｊリーグ昇格を目指している。

5. FIFA 女子ワールドカップドイツ 2011 なでしこジャパン（日本女子代表チーム）

2011 年にドイツで開催された FIFA 女子ワールドカップを制したなでしこジャパン（日本女子代表チーム）。

グループステージを 2 勝 1 敗の 2 位で勝ち上がり、ノックアウトステージでは準々決勝で開催国の強豪ドイツを延長戦の末 1-0 で下すと、準決勝でもスウェーデンを 3-1 で退け、初の決勝に進出。
優勝候補のアメリカとの決勝戦で、日本は２度リードを許すも、後半終了間際に MF 宮間あや、延長の終了間際にも MF 澤穂希がそれぞれ同点ゴールを決めて追いつく驚異的な粘りを見せる。延長戦では決着がつかず、迎えた PK 戦で GK 海堀あゆみが相手のキック 2 本を止めるファインセーブを見せて、日本サッカー史上初の FIFA 大会制覇を果たした。
主将の澤は大会最優秀選手と得点王（５得点）に輝き、チームはフェアプレー賞を受賞した。
なお、この年は大会前の 3 月に東日本大震災が発生。日本中が悲嘆に暮れる中、なでしこジャパンがひたむきに、決して諦めることなく戦い、優勝を果たしたことが日本全体を勇気づけたとして、団体としては初の国民栄誉賞に輝いた。